

## 政務活動調査報告書

調査日	平成29年8月7日（月）
視察場所	福岡県 北九州市
調査項目	自治体開設の子ども食堂について
視察者名	畔柳敏彦 井手瀬絹子 畑尻宣長 野島さつき
市の概要	面積：491.95 km <sup>2</sup> 人口：961,815人 人口密度：1,962.76人/km <sup>2</sup> 世帯：469,686世帯 経常収支比率：96.9% 実質公債費率：11.8%

北九州市は、経済的な理由で食事を満足に取れなかったり、親が忙しくて一人で食べたりしているひとり親家庭の児童・生徒に食事提供や学習支援を行う「子ども食堂」を設置した。対象は小学高学年から中学生、市民レベルの取り組みが広がる中、自治体も子どもの居場所づくりに乗りだした。自治体の食堂設置は全国で初めてということでもあります。市内2カ所に設置。学童保育後、親が仕事を終えるまでを主に想定し17時から21時、1箇所は毎週水曜日にそして2カ所目は木曜日に開催している。スタッフが勉強を教えたり、調理や掃除など生活習慣を指導、運営は子育て支援団体などに委託している。

市によると、20歳未満の子どもがいる市内のひとり親家庭は約1万8千世帯（11年現在）で、過去20年で約5400世帯増え、このうち母子家庭の年収は全国平均291万円に対し、市内は256万円。母子家庭の小学高学年－中学生は1万人近いという。市は「食事を満足に取れない子どもはさらに増えるだろう。学習や食の環境を整えることで『貧困の連鎖』を断ちたい」としている。長崎大教育学部の小西祐馬准教授（児童福祉）は「市民が手弁当で子ども食堂に取り組んできたが、本来は行政の役割。将来は小学校区に一つ設けるべきだ」と指摘している。

市が子ども食堂を立ち上げた目的は上記の趣旨であるが、この取り組みを通じて民間を主体とした「子ども食堂」の活動が継続したものとして広がるよう運営ノウハウの伝承や相談対応等の支援をしていくためであります。また、来年度からは、市内7つある子ども食堂の関係者と新規参入を目指す人の情報交換の場として「ネットワーク会議」を創設すること。これは定期的な話し合いで課題を共有するとともに新規参入者に運営ノウハウを伝授して市内で仮設箇所を増やす狙いであるという。

<北九州市のひとり親家庭の状況>

区分	北九州市		全国	
	母子家庭	父子家庭	母子家庭	父子家庭
世帯数	14,708 世帯	2,322 世帯	123.8 万世帯	22.3 万世帯
平均年収	256 万円	430 万円	291 万円	455 万円
調査名	平成 28 年度北九州市ひとり親家庭等実態調査		全国母子世帯数等調査	
平成 29 年 5 月 児童扶養手当受給者	10,124 世帯			

<北九州市のひとり親家庭実態調査>夜間の時間帯での子供が一人での状況

	母子家庭	父子家庭
19 時以降	32.1%	46.6%
20 時以降	12.0%	28.4%
21 時以降	4.6%	17.4%
22 時以降	2.8%	6.4%

<世帯の年収別、食品摂取量>

世帯の年収別、食品摂取量 (20 歳以上、性別)		単位 (g/日)	
		世帯収入 200 万円未満	世帯収入 200 万円以上 ~600 万円未満
		世帯収入 600 万円以上	
	男性	404 人	男性 1,585 人
	女性	621 人	女性 1,789 人
野菜類摂取量	男性	258.7	266.0
	女性	266.5	271.2
果物類の摂取量	男性	73.9	94.8
	女性	110.6	128.4
魚介類の摂取量	男性	75.7	80.6
	女性	63.9	68.4
肉の摂取量	男性	88.1	99.8
	女性	62.4	71.0

上記のアンケートをとり、この前提で子どもの貧困対策として H28 年度 北九州市モデル事業「子ども食堂」が実施された。

## <事業概要>

仕事等で保護者の帰宅が遅くなるご家庭の子どもの孤食を防止し、幸福感や安心感を与える場所を提供するため、親が帰宅するまでの間、子どもたちが多くの人たちと触れ合うことができる子ども食堂をモデル事業として平成 28 年 9 月末より、八幡東区の尾倉市民センターと小倉北区の日明市民センターで開始した。



- (1) 対象者：仕事等で保護者の帰宅が遅くなる家庭等の小中学生
- (2) 事業内容：
  - ①子どもたちとともに調理し、食卓を囲みながら温かい食事を提供
  - ②学習習慣の定着など学習支援
  - ③基本的な生活習慣の習得の支援や生活指導
- (3) 実施場所・頻度・時間
  - ★尾倉市民センター「尾倉っ子ホーム」毎週水曜日  
17時から21時（お迎えは20時30分まで）
  - ★日明市民センター「日明げんきもりもりハウス」毎週木曜日  
17時から21時（お迎えは20時30分まで）
  - ※祝祭日及び年末年始、市民センター行事日は休み
- (4) 参加費・・・（無料）
- (5) 事業の実施体制  
食事の提供や生活指導を行う「NPO 法人等の民間事業者」と学習支援を行う「学生ボランティア、「地域」の連携による運営
- (6) 尾倉：「NPO 法人福岡県・障がい者支援機構」
  - ：「一半社団法人コミュニティシンクタンク北九州」
  - ：「NPO 法人フードバンク北九州ライフアゲイン」
  - ：「NPO 法人わくわくわーく」の4団体共同事業日明：「社会福祉法人グリーンコープ
- (7) H28 年度予算  
500 万円（目安：1 か所当たり 250 万円）」  
※厚生労働省の「ひとり親家庭等生活向上次行実施要項」に基づき  
国庫補助（1/2）を活用して実施されている。

## <子ども食堂1日の流れ>

- ① 16:00 夕食づくり  
子どもたちは30分間の学習、自由に遊ぶ、外出は大人が見守る

- ② 18 : 10 子どもたちは手を洗い配膳のお手伝い。
- ③ 18 : 30 いただきます。・・食べ終わったら、自分で片づける。
- ④ 19 : 00 自由遊び
- ⑤ 20 : 30 帰り支度 ・掃除、ゴミをまとめる
- ⑥ 21 : 00 閉館

## <詳細>

### ① 1日のスケジュール

子ども食堂に来るとまずは受付、受付後は食事の準備ができるまで上級生組と下級生組と別れて宿題やプリントをする。食事後は勉強組と遊びや工作組と別れて各々時間を過ごす。

### ② 受付

子どもたちが元気に「ただいまー」と言いながら受付で名簿にチェック。

自分で作ったガムテープの名札を胸につけて、学習支援の部屋へ行く。

子どもたちの来所は、放課後児童クラブが終わる17時ぐらいがピークになり、市民センターが一気ににぎやかになる。

### ③ 学習支援

北九州市立大学、九州女子大学、九州国際大学などの学生が子どもたちとコミュニケーションを図りながら、学習支援を行っている。子どもたちは宿題のほかに、受託団体が準備したプリントなどをしながら、苦手科目などの克服に取り組んでいる。

### ④ 調理

調理をする前に使用する食器や調理器具を消毒し、調理スタッフの健康チェックをする。調理は、企業や地域の方々から提供された食材をチェックしながら、栄養バランスやアレルギー児童対応を考えて行う。野菜は必ず湯通しする。食中毒予防にも努める。

メニューについても毎回「主食・主菜・副菜」必ず取り入れる。野菜は100g以上使うようにしている。調理スタッフは受託団体スタッフのほか食生活改善推進委員や地域ボランティアなどで構成される。

### ④ 食事

人数が多いため上級生組と下級生組に別れて食事を行う。学習支援のボランティアも一緒に食事を行う。多くの子どもたちがお代わりをするが、苦手な食べ物を残す子どもも少なくない。ボランティアが「一口でも食べてみて。だめなら無理しなくていいから。」と優しく声をかけながら、子どものペースで一緒に食事をするように心がけている。

### ⑤ 工作

食事のあとは各々が自由な時間を過ごす。宿題の続きをしたり、本を読んだり。子ども食堂では、子どもたちが自宅でも自分たちで時間を管理しながら規則正しい生活ができるようにすることを目的に、1日のスケジュールを組んでいる。

### ⑥ 後片付け

食事を終わると食器を調理室に運び、食器洗いの当番になった子が、みんなの分の食器を洗う。ボランティアは食育の観点から「食器の洗い方」や「みんなでご飯を食べる楽しさ」

をやさしく話しながら、楽しく一緒に食器洗いをする。

#### ⑦ 保護者の迎え

20時を過ぎると子どもたちの保護者が迎えに来る。スタッフは保護者に、子どもたちがどんな様子で過ごしていたかなど報告をしている。

保護者もスタッフの話聞きながら、家庭では見せない子供の姿に興味津々である。子どもたちも帰るときには、スタッフに「ありがとうございました」と頭を下げて帰宅の途につく

#### <所 感>・・・畔柳敏彦

2014年の厚生労働省の発表で、6人に1人の子どもが貧困状況にあることが、明らかになりました。お金がないことにより、家族で旅行をしたことがない、ユニホームや道具が必要なクラブ活動への参加は諦めなければいけない、塾に行けない、大学に進学したくてもできないなど、多くのチャンスと経験を失います。そして、おとなになったときにまた、貧困家庭を築いてしまうという貧困の連鎖が生まれます。地域の子どもの、地域が見守り、学びや暮らしを有機的に支えるネットワークをつくり、子どもの未来を明るく変えていくことが時代的にも求められていると考えます。さまざまなカタチの居場所を通じて、信頼できるおとなや若者につながったとき、一人の子どもの人生が大きく変わる可能性があると感じています。

私ども公明党は東京豊島区にある子ども食堂を提案した栗林氏に直接ヒヤリングをし、家庭的雰囲気味わえない子どもたちの心の育ち問題、孤食の実態、希望を持ち人間として成長力をはぐくみ、貧困の連鎖を断ち切るためには、子どもの居場所づくりの必要性を痛切に感じてまいりました。ここ2年間にわたり議会でも一般質問を行い民間の子ども食堂開設への支援や学習と食堂の一体化での運営の事例など提案してまいりました。担当部局も重い腰を上げて本年は本市におけるこどもの居場所づくりのありようを検討するため、調査費を計上したところであります。当局の本市における母子・父子家庭が約2,000人ほどであり、貧困率は少ないと判断している。果たしてそうであろうか、数字が示す指標はとても大切ですが、率という数字だけを見てはいけないうのが貧困家庭の実態ではなかろうか。愛知県の子ども実態調査から判断して岡崎市はどうかという見方をしている。貧困家庭といっても子どもの責任ではない。また、孤食という観点からみれば、所得の多い家庭でもありうることである。

人と人が交わり、そこから生まれる人間愛と心の充足感を子ども時代に体験する数が多いほど、相手に対する思いやり、共感性がはぐくまれてくるのではないかと考えます。そのことが土台となり、人生にも、学習にも挑戦しようという気持ちが湧いてくるものと感じています。北九州市の子ども食堂は時の市長がリーダーシップをとり、有能な職員に立ち上げを託し、それこそ職員が東奔西走して大学、NPO、地域などの連携、保健所との交渉も行い衛生管理の対応も許可を取り、ようやく立ち上げた全国の自治体初の子ども食堂が開設されました。

上記、概要にも触れられていますが市独自で綿密な調査分析を行い実現に向けて精力的に

取り組まれた結果であると研修を受けて感動しました。

今後、岡崎市が私どもの提案している「学習支援型子ども食堂」を創設して行くためにも、行政自らが、そのノウハウを構築するべきであると思つづく思いました。

国では子供の未来応援地域ネットワーク形成支援事業の実施要領を策定し、子どもの貧困対策の推進に関する法律に基づき、政府は「子供の貧困対策に関する大綱」（平成 26 年 8 月 29 日閣議決定）を策定するとともに、ほぼ全ての都道府県において、当該大綱を勘案して、子供の貧困対策についての計画が策定されているところと聞いている。

地域の実情に応じた具体的な施策を講じるに当たっては、地域の住民に身近な市町村が、都道府県計画を踏まえ、都道府県と連携しつつ、積極的な役割を果たす必要があり、都道府県は、広域調整、市町村の後方支援、取りまとめの役割を果たすことが課せられているわけであります。一方、政府は、「一億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策」において、「子育てが困難な状況にある家族・子供等への配慮・対策等の強化」として、経済的に厳しい状況に置かれたひとり親家庭等の子供に対する学習支援や居場所づくりなどの支援を取りまとめた「ひとり親家庭・多子世帯等自立応援プロジェクト」の実効性を高めるため、地方自治体を通じた支援を行うこととされています。本事業は、プロジェクトの実効性を高めるため、各地方自治体において、地域の実情を踏まえ、各種施策を組み合わせるなど創意工夫を凝らし、子供の発達・成長段階に応じて切れ目なく「つなぎ」、教育と福祉を「つなぎ」、関係行政機関、地域の企業、NPO、自治会などを「つなぐ」地域ネットワークを形成して支援を行うことを目的としています。というのがこの事業であります。本市の方針を早く出せるよう後押しをしていきたいと考えます。いち早い支援体制を作り上げるために。

#### <所感>・・・井手瀬絹子

北九州市の平成 28 年度モデル事業「子ども食堂」を勉強させて頂きました。仕事等で保護者の帰宅が遅くなるご家庭の子どもの孤食を防止し、幸福感や安心感を与える場所を提供するため、親が帰宅するまでの間、子どもたちが多くの人たちと触れ合うことが出来る子ども食堂を、モデル事業として平成 28 年 9 月より、八幡東区の尾倉市民センターと小倉北区の日月市民センターで開始しています。経緯としては、平成 27 年に東京の栗林さんの子ども食堂の取組が TV 等でクローズアップされ、市民の関心度が高まったそうですが、北九州市では当時 1 件もなかったそうです。現市長が当選し子育て支援の大切さを訴えられ、子ども家庭局子育て支援課が創設され、1 件もないのなら、行政が運営しながら経験やノウハウを蓄積し、市内に広めるための旗振り役になろうと、子ども食堂係長 1 名と部下 1 名の 2 名体制で、しかも、28 年度予算締め切り 3 日前に予算案を提出し平成 28 年度モデル事業として事業化されるに至っています。事業内容は、1、子どもたちと共に調理師、食卓を囲みながら温かい食事を提供。2、学習習慣の定着などの学習支援。3、基本的な生活習慣の習得の支援や生活指導。の 3 点です。事業の実施体制は、食事の提供や生活指導等を行う「NPO 法人等の民間事業者」と学習支援を行う「学生ボランティア」「地域」の連携による産官学協働です。と言っても、何もしないで集まるわけではなく、係長と部下が北九州市立大学の子

どもに関する学部と直談判した賜物なのです。

大学と連携しプロジェクトチームを創設、30名の登録者を募り、子どもとの接し方研修等を行うことで、他の大学からも申し出があるそうです。また、係長のモットーは、現場に出て一緒にやること、その影響でしょうか、子ども食堂の地元小学校の校長先生や教頭先生も食事の輪に加わり、子ども食堂での子ども達の様子を見に来るそうです。また、クレーンは全て市が受けて解決されています。保健所の食品衛生責任者の資格も自ら取られ、衛生上のルール化も保健所と一緒にやって行っています。子ども食堂を長く続けるには市が絡んで仕組みづくりをすることが重要と言われました。今後は社会福祉協議会とも一緒にやっていきたいと話されていました。現在、参加費は無料ですが、地域の方から、無料はよく無いとの助言を受け、来年度は100円頂くようにするとも言われました。

最後に「子ども食堂は、本当は無くてもいいんです。いや、無いほうがいいんです。しかし、顔では笑ってもいつも心は泣いている、そんな子供は、身近なところにいます。支援が必要な子供に支援を届けるため、今は、心のよりどころ・・・子ども食堂が必要なのです！！」本当にその通りです。私もそう思います。勉強させていただき一番心に響いたことは。行政の実施する子ども食堂が一件もないのなら、自分が旗振り役になろうと立ち上がった、長迫係長さんの心意気です。白紙の状態から自分が動いて当たって作り上げる、周囲の人の信頼を勝ち取る、私はこの姿が本来の行政マンの在り方ではないかと思いました。本市にも立派な行政マンがいます。旗振り役の出現に期待したいと思います。

### <所 感>・・・畑尻宣長

全国的に広がりつつある「子ども食堂」について、北九州市の取り組みを視察致しました。きっかけとなったのは、市長が子ども食堂をテレビで知り、当時、北九州市では1件も無かったため、先駆けて行政が運営しながら経験しノウハウを蓄積して市内に広めようということから始まりました。やはり、市長の後押しが大きかったと思われませんが、予算などはそうした応援がないと動かないのが現実ではないかと感じています。また、公共が手掛けることでのルール作りが、実践の中で洗練されていくので実務としても合理的だと思いました。

目的にひとり親家庭等の子どもの孤食の防止、この取り組みを市民に広げ、子ども食堂の開設を促す、ということであり、裏には貧困というレッテル貼りにならないかを危惧しながら、そうならないように気を付けての運用も大事な視点であると思いました。だからこそ、孤食にこだわり、貧困層の子どもだけでなく対象者を広くする、間口を広げる工夫もされています。それが、対象者を、仕事等で保護者の帰宅が遅くなる家庭等の小・中学生としています。そのような子どもたちを、この子ども食堂では、「子どもたちとともに調理し、食卓を囲みながら温かい食事を提供」「学習習慣の定着などの学習支援」「基本的な生活習慣の習得の支援や生活指導を行う」との、孤食だけでなく、様々な観点から子どもたちの成長に大事な環境を作っているのだと感心しました。

データからは、年間収入別の食品摂取量を調べると、収入が低いと子どもの肥満が多いということがわかり、それは、栄養過多が原因。また、虫歯も多い。そして、1200万円以上も同じ結果が見られたということで、孤食ということ、寂しいということが分かった。

子ども食堂が出来た時は、市民センター内を裸足で走り回ったり、怒られても反省しない。周囲の人に攻撃的な言葉を浴びせかける。食事中うろうろする。というような状態の中、約3ヶ月後には、上級生が下級生のお世話をするようになった。その結果、子どもたちの中でのルール尊寿の声掛けをするようになってきた。自らコミュニケーションを取るようになってきた。食事中も座って食べるようになってきた。と変わってきたということがあった。この事実、子ども食堂を通して、社会性を身につけることが出来る環境が、ここにはある。そういう場に作り上げてきた、北九州市さんの努力があると思いました。

さらには、子どもたちの成長における環境が悪かったということがあったが、子ども食堂を行ってきたら、学力の向上も認められ、宿題を忘れなくなったそうです。という声も聞かれました。そう考えると、子ども食堂を通して、孤食だけでなく、生活指導がされているというところが子どもたちの環境を一変していったのだと思います。

この公共の子ども食堂が出来てから、民間の子ども食堂も出来てきた。市が先導することで民間にも波及されていったことを考えると市の役割は、大きいと思いました。ぜひ本市でも、市が先駆を切って「子ども食堂」を立ち上げて頂き、市内全域に広がりを見せるような取り組みがなされる様、提案していきたいと思いました。この取り組みが進めば、負の連鎖も食い止められるのではないかと思う事業となることは間違いないと思います。

#### <所 感>・・・野島さつき

厚生労働省が2014年7月にまとめた「国民生活基礎調査」によると、平均的な所得の半分を下回る世帯で暮らす子どもの役割を示す「子どもの貧困率」は、2012年には16.3%と過去最悪を更新しており、内閣府の「平成26年版子ども・若者白書」でも、子どもの貧困率が上昇傾向にあることや、ひとり親家庭における貧困率の割合が非常に高い水準になっていることが報告されている。最近の調査では、最低賃金の上昇やひとり親家庭への児童扶養手当の拡充等少しずつ回復傾向にあるようだが、子育てと仕事の両立で悩み、低収入で不安定な非正規の仕事を掛け持ちするひとり親が依然として多いのも実情である。

今回視察した北九州市では、平成27年に東京の子ども食堂の取り組みがテレビ等でクローズアップされたことで市民の関心度が高まり、ボランティア団体等から寄付の問い合わせがあったこともきっかけとなり、子育て施策に力を入れている市長が、行政が運営しながら経験やノウハウを蓄積し、市内に子ども食堂を広める『旗振り役』になろうと、「子ども家庭局」を立ち上げたという。「ひとり親家庭等実態調査」をもとに、モデル事業として平成28年9月末より、2箇所市民センターで自治体初の子ども食堂を開設し、経済的な理由で食事を満足に食べられず、親の仕事の都合により、一人で食事をしている児童・生徒を支援している。

H28年度予算に500万円計上(厚生労働省の「ひとり親家庭等生活向上事業 実施要項」に基づく国庫補助(1/2)を活用)

週1回、17:00~21:00に実施し、参加費は原則無料としている。

事業内容として

①子ども達と共に調理し、食卓を囲みながら温かい食事の提供



②学習習慣の定着などの学習支援

③基本的な生活習慣の習得の支援や生活指導を掲げ、食事の提供や生活指導等を行う「NPO法人等の民間事業者」と学習支援を行う「学生ボランティア」、「地域」の連携による運営を行う。

開所までの間、受託団体のスタッフやボランティアに対し、衛生管理や食の安全確保を徹底するため、保健所での研修や市の管理栄養士による現場での事前研修を実施し、開所後も、市の管理栄養士による現場での衛生管理や食中毒の防止、食材の点検など食の安全確保を確実にし、食物アレルギーにも十分に配慮するとともに、子どもの迎え対応の徹底など子ども達が安心して過ごすことのできるよう指導を行っている。

特に担当職員が心がけているのは、多くの大人の協力で「貧困の連鎖」を断ち切ること。地元大学に学生ボランティアのお願いをする、地域の理解を深めるため自治会役員にも参加を呼びかける、近隣企業に寄付金や食材の寄付をお願いする等、たくさんの「目」で子どもやひとり親が地域で孤立しないようサポートをしている。

事業開始後3ヶ月の時には、センター内を裸足で走り回る、怒られても反省しない、周囲の人に攻撃的な言葉を浴びせかける、食事中にウロウロするなどの様子が見られたが、半年経過後には、上級生が下級生のお世話をするようになった、子ども達の中でルール遵守の声掛けをするようになってきた、食事中も座って食べるようになってきた等、成長の様子が伺える。子どもにとって、「ほめられる」「必要とされている」ことが成長の大きな要因になっているようだ。

成長期に満足な食事や教育の機会を与えられないことが子どもの心身両面に影響を与え、社会参加の機会を奪ってしまう可能性もあることを考えると、北九州市のように自治体が子どもの居場所づくり積極的に取り組む必要性を強く感じる。同市では、自治体が行ったことにより、2つのNPO法人、2つの地域団体、民間のカレー店が子ども食堂を始めるようになり、『旗振り役』は成功している。いずれは高齢者・障がい者・子どもの交流サロンへと発展させたいという。

全国平均に比べ、岡崎市の子どもの貧困率は低いとはいえ、対策を必要としている家庭も多くある。政府は「地域子供の未来応援交付金」を創設し、自治体の取り組みを支える枠組みをつくっている。交付金には貧困に関する実態調査を後押しするメニューもあるので、是非活用し、まずは正確な実態把握をすべきであると思う。貧困に悩む子どもや親を地域全体で支え、誰もが安心・安全に暮らせる岡崎市を目指したい。

以上

